

童

2019年2月1日。

大地の東側の軒下にも、コンスタントにつららができるようにになりました。が、そのつららの長さは例年の半分以下。子ども達の手の届く所まで、なかなか伸びてくれません。子どもたちの大好きなつらら。つららには、何か魅力的な要素がありますね。

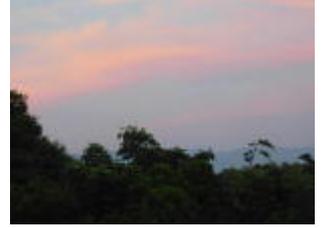
雪が少ない、少ないと言っているうちに、大寒が過ぎ、日が延びてきて何だか暖かさを時折体感するようになってしまいました。雪も降ってはまた溶けの繰り返しですが、子どもたちが十分遊べる雪の量は、何とか大地では維持できているという感じです。

恒例のクロカンは、例年に比べ、とても開放的で見晴らしの良い気持ちの良い世界を満喫しています。子ども達からも「綺麗、綺麗」と歓声が上がります。雪が降った翌日の好天の時にクロカンをすることが多いので、そのふわふわ感の中、晴れ上がり澄み渡った世界を、満喫することをとてもたくさん体験してきました。

また、好天に恵まれている日が多いせいか、1月と言えども、高社の丘の丸太やそのりの上で、お弁当を食べる日もたくさんありました。すごいことです。何と云っても、今シーズン初めての車庫の雪下ろしを行い、屋根からダイブして楽しみ、ラーメン弁当を、青空を見ながら屋根の上で食べたこと。かなり興奮していました。下から見ていると、子どもたちの光景が青空の中に浮かんでおり、不思議な世界でした。

雪は無限に子どもたちに遊びの世界をプレゼントしてくれます。子どもたちの3大魅力は、水と砂と土（これさえあれば永遠に遊んでいる）と言われていますが、雪国の子どものにとっては、やはり雪は、大きなアドバンテージです。砂に水が混ざった以上に、自分のクリエイティブな世界を構築できるからでしょう。

キャンプに遠くからスキーに来る子供たちも、アルペンスキーを楽しんでいるときも、大地で雪遊びするよという、歓声を上げ、真っ暗になるまで雪で楽しんでいます。奥が深いです。雪遊びは子どもたちにとって。



【大地の冬景色】

今冬で、大地の丘で私たちは、何回の冬を過ごしているのでしょうか。34歳ぐらいから、大地で住み始めたので、28回目でしょうか。住み始めた当時は、大地開園、子育てと慌ただしい時を過ごしてきて、つい最近まで、ゆっくりと大地の自然や景色をゆったりと見てこなかった、体験してこなかったというのが、本音であり、後悔です。

自分の性格は、立ち止まることなく、先へ先へと進んでいく性格なので、立ち止まってゆっくりすることがさぼるように思えて、そんな暇があったら何かをする、作る、目に見える作業をするといった感じで進んできてしまいました。

妻は、正反対に、ゆっくりとじっくりとその時を楽しみながら過ごす性格なので、いつも特急電車に乗り遅れないようについてくるのがしんどかったことが多々あったと、申し訳なく思っています。それでも、妻は、「その性格だからこそ、大地の環境はここまで何もないところから、作り上げてくることができた」と、言ってくれる、さすが、観音様のような大きな懐の妻です。そんな中でも、子どもたちの教育には、何とか鈍行電車の持つ魅力を十分に伝えてくれたことは、本当に感謝です。

大地の美しい景色とその環境の魅力に立ち止まり、心から美しい素晴らしいと思えてきたのは、恥ずかしながら、約5、6年前、旧の文庫が火災にあった頃からでしょうか。だから、新文庫は、東西の山々が見えるような向きで建築し、朝の日の出から夕日まで見えるようになり、特に2階からは、大地を取り巻く環境を建物を含めて、全て見れるようになっており、ここにいるだけで、大地の歴史を回想することができます。時折、一人ぼっちで2階のカウンターで、コーヒーを飲みながら、大地の園舎や志賀高原の山並みを見て、回顧している初老の紳士！？は青ちゃんです。

プライベートな話ですが、冬になると私たちは、夏涼しい北側の寝室を、薪ストーブのあるリビングの片隅に移動します。そのおかげで、朝目ざめると、布団の中から、志賀高原からの朝日という絶景を満喫できる幸せを手に入れることが毎日できます。

その美しさの魅力を改めて実感再認識して、立ち止まりながら（もうこれ以上、新しい建物はいらない、作らないと妻に止められながら！？）環境整備や美観をじっくりと整えていく方向に転換してくるにつれて、ゆったりした豊かな時を過ごせるように少しはなってきたようです。それは、妻にも教えられたし、子ども達からも気づかされたことも多く感じます。

文庫を作り上げ、一昨年は、大地の裏山を取得して、その森を整備していくと、更に、大地のもみじ林をはじめ、その美しさを感じました。今まで、大地の裏の景色を一望できなかったのがなかったので、大地の置かれている位置が、航空写真のように見ることができるようになりました。そして、昨年の森林整備により一段とすっきりと透明感をもって見ることができるようになりました。北海道の美しさの一つに、広大な見晴らしの良い原野や畑があります、美瑛や富良野の丘は、とても有名ですね。そこまではかないませんが、今年の大は、これらの丘を彷彿させる楽しみがあるので。

それは、子どもたちと出かけるクロカんに反映されています。まずスタートは、大地の上のスロープから裏山の畑の平原を歩きます。それから駐車場を過ぎると、そこは別世界です。大地テニスコート予定地の雪の平原。更に、サンクゼール教会とレストランと青空のみを見ながら歩く伐採されたばかりの広大なリンゴ畑。（来年は、リンゴ苗が植えられて、この平原は今年だけ）。この誰も踏んでいない雪の平原に、子どもたちがスキーの跡をつけていくその絵のような美しさ。サンクゼールの丘の美しさを満喫した後は、雪の雑木林を歩き、大地を一望できる畑に戻ります。そして、大地のスロープを下り、下から大地の建物群を一望しながら、高社の丘を登り、大地から再び志賀高原を一望します。このように透明感のあるクロカンを楽しんでいます。

私たち夫婦も、時間が少しでもある時は、ゆっくり大地の周囲や子どもたちのクロカンコースや雑木林をノースやクロカンで散歩することが多くなりました。特に、大地の建物や文庫の景色が一望できる、下の畑を歩いたり雑木林を歩くことがとても魅力的です。もちろん、戸隠鏡池や飯綱山なども頻繁に出かけ、静かにその景色や静寂を主体的に楽しむ精神的なハードな楽しみも健在ですが！！

ドラマ「この地球には、これ以上の繁栄はいらない」というように、妻曰く「大地は、これ以上に建物はいらない」精神的に豊かな建物を築いていこうというのが、きっと妻の文庫にかける望みなのでしょう。

特急電車からいきなり鈍行電車乗り替えはまだちょっぴり厳しいので、せめて、急行か準急に乗り換えて、今まで見なかった景色を、車窓でお茶を飲みながら、楽しんでいく旅を選択していこうと思っています。